

パネルディスカッション

田中教授をコーディネーターに迎え、4人のパネリストが参加者から寄せられた質問に回答する形でパネルディスカッションを行いました。活動を進める上での課題や疑問に、パネリストから具体的な回答が寄せられました。最後に田中教授が総括をしました。



Q 住民のやる気を引き出すコツや工夫を教えてください。

A いろいろなイベントに参加してもらい一緒に汗を流して価値観を統一できるのかなと思います。一緒にやることで気心も知れて、仲間意識も出てきます。

Q 若い人は日頃どのように活動に関わっていますか。若い人の参加についてどう思いますか。

A 若い人に負担を強いるのではなく、その時にできる年代の人がやれば良いのではないのでしょうか。

いろいろなことに取り組んでいるとこちらから声をかけなくても、若い人からアプローチしてくることがあります。そういう人たちの活躍できる場があるといいですね。

仕事は人を選びません。町会には、会議にパソコンを持ち込んで速記をする若者もいれば、論旨に無駄の無い完璧な議事録を作るおばあさんもいます。スキルを評価し素晴らしさを分かって若者もこちらを向いてくれるのではないのでしょうか。

総括

田中雅文教授（日本女子大学人間社会学部教育学科）



社会学者の原田隆司さんが「ボランティア活動と言っても、究極は人間関係なんだ」と言っています。始めは支援する人とされる人という関係が、時を経ると本当に人と人の対等な関係になる。皆さんの活動が地域に広がることでボランティアという概念が無くなるほどにお互いが助け合って、交流することで、地域の中でのフェイスツーフェイスの関係になるんだろうなと思いました。そして、本当につながることで、その中で生きることが見守りになり、地域の中の人生が豊かになっていくのかなとつくづく思いました。

休憩・相談会

はぐるまの会のハーブティー、多摩区商店街連合会と日本女子大学人間社会学部がコラボレーションして開発したお菓子「米彦」（マイ・プリンス）と「米姫」（マイ・プリンセス）を食べながら事例発表者と参加者が交流し、質疑応答、意見交換をしました。



ミニコンサート

ベルクロシェットのメンバーが、懐かしい童謡やクリスマスにちなんだ曲を演奏しました。

ベルクロシェットとは？

生田在住者を中心に5年ほど前に結成した、ミュージックベルとトーンチャイムの演奏を楽しむグループです。ジャンルにとらわれず練習し、年に数回演奏活動をしています。



2018年度

生田ご近所 パワーアップ集会

レポート

平成30年12月1日（土）
13:30~16:00
日本女子大学生涯学習センター

- 8団体による事例紹介 ●休憩・相談会
- ミニコンサート ●パネルディスカッション



生田地区では民生委員児童委員協議会の区割りを参考に、地区を3つのエリアに分けて、身近な活動や地域の課題について考えて行きます。

平成30年度は生田第2地区民生委員児童委員協議会のエリア（寺尾台、西生田、栗谷、南生田、長沢）を対象に「生田ご近所パワーアップ集会」を開催しました。



生田ご近所パワーアップ集会とは？

地域で既に取り組みされている活動を知ること、地域の活動の大切さを知るとともに現在活動している人やこれから活動を始めたいという人たちのヒントになることを目的に開催する集会です。

8団体による事例紹介

生田第2地区民生委員児童委員協議会

生田第2地区民生委員児童委員協議会では、34名が活動しており、うち2名は主任児童委員です。月に2回定例会を開き、さまざまな情報交換をしています。また、お誕生会や絵本の読み聞かせ等の子育て支援や、研修会、視察もあります。今年度初めて長沢地区でミニランチ会を行います。民生委員になって、素晴らしい出会いがあり、地域のことが良く分かるようになったと皆さんおっしゃいます。私たちの基本精神は隣人愛だと思います。地域の困っている人、立ち止まっている人に一緒に寄りそう、それが民生委員の姿勢ではないでしょうか。



葉月町会

身体が弱って外に出られない高齢者を外に引っ張り出すためのボランティア助け合い活動を考え、2015年にスタートしました。お手伝いのメニューを用意してボランティアに手を挙げてもらいます。任期は1年で、1年が終わったところで感謝状をお渡ししています。ボランティアお手伝いリストを各戸に配布し、細かい内容は当事者間で決めてもらいます。最初に用意したメニューは、買い物補助や大工補助等高齢者向けが主でしたが、2016年版から子どもの一時預かり等若い人向けも加えました。お手伝いリストが無くても助け合える顔見知りの関係づくり、日常の中で助け合えるスタイルができると良いなと思っています。



NPO法人アイゼン

生田ケアセンターには地域連携室という約32.9畳の部屋があり、地域の方々がいろいろな活動をしています。たとえば、書道教室をしたりヨガをしたり、生田の老人クラブの皆さんは麻雀をしています。子どもを連れておしゃべりサロンや大正琴をやっている方もいます。1月からはリトミックを開催予定です。「いくたの丘カフェ」では、気軽に立ち寄って挽きたてのコーヒーを飲みながら楽しくおしゃべりをしますが、毎回満員です。ここは営利目的の活動に使っても使用料は必要ありません。地域の人にとって便利なものになればいいので、ぜひ皆さん使ってください。



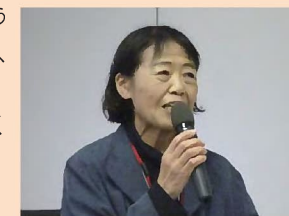
寺尾台いきいき体操

寺尾台ではコミュニティセンターで毎月第1、第3、第5木曜日に、おしゃべりを楽しみながら健康づくり活動を行っています。床に寝転がって、普段使わない節々を動かすと体がポカポカと軽くなります。これからの元気に楽しんで行きたいと思います。



長沢カフェ

地域の皆さんの楽しい交流の場があったらいいなと、2016年12月に長沢ひろばで開店しました。歌ったり体操をしたり、認知症サポーター養成講座も行いました。皆さんの元気な顔を見ることができてうれしいのですが、来られない方がどうしたら来てくれるか考えていきたいです。



茶々の会

ヘルパーとしての経験を活かし、地域で集まりを開きたいと友人2人に声を掛け、2012年1月に自宅でスタートしました。会の当日は午後1時から約1時間手芸等の作品づくりをし、その後はお楽しみのもぐもぐタイムでおしゃべりに花が咲きます。程よいところでゲームや歌に移り、4時前後に終了となります。四季折々のイベントとして、安来節やアイリッシュハーブの演奏、お茶会、クリスマス会等もしています。最初は「何で家が会場なの」と言っていた主人も、今では積極的に手伝ってくれています。参加者の皆さんの笑顔が3人へのご褒美だと思っています。本当に始めて良かったです。



くりやカフェ「マロン」

地域の中央にある須賀神社等で、子どもからお年寄りまでが交流できるカフェを開催しています。会費は1000円です。ハロウィンパーティーやお抹茶カフェ等大変盛り上がりしました。これからもたくさんの皆さまに寄っていただきゆっくりとお話ししてもらえたらと思います。



社会福祉法人はぐるまの会

知的に障害のある仲間たちが働く第2はぐるま共同作業所を西生田で運営しています。清掃活動や近隣のお店やNPO法人との協働作業等、地域と一緒に生き生きと働いています。今日のような活動を通して顔が分かる関係ができ、地元と繋がれたらいいなと思っています。

